

## 第3回「度島まちづくり塾」の様子

### ①ホームルーム（アイスブレイキング）



今回で、「度島まちづくり塾」も第3回目を迎えました。第1回目から比べると、生徒達も緊張感がとけてきて、とても伸び伸びと取り組んでいました。今回のホームルームでは、「スイッチオン!」を行いました。この「スイッチオン!」は、部活で言う準備運動のようなものです。大きな声で「スイッチオン!」と言うことで、「たくしま塾」に集中して取り組むためのスイッチを押すと同時に、クラスに一体感が生まれました。

先ず始めに、前回（まちあるき）の振り返りを行いました。その中で、生徒達は度島には「課題」より「宝物」の方が多いということに気づきました。

そこで、今回は、度島の「課題」と「宝物」を整理し、どうすれば、「課題」を解決して、「宝物」を守っていけるかその「手の打ち所」について、みんなで話し合いました。

### ②ワークショップ（その1）



### ③ワークショップ（その2）

ワークショップでは、「手の打ち所」を考える際に、模造紙を使い、例として、「度島の海」について考えました。そこには、「きれいな海」「おいしい魚」のお宝に対して「ゴミが多い」「海岸が汚い」と課題が出されました。今回のテーマでもある、手の打ち所は、「みんなでクリーン作戦」「ゴミを捨てないポスターを作って貼る」「度島の魚を提供するカフェを作る」「瀬戸市場に出す」「おじいちゃんやお父さんだけじゃ無く若い人が漁業に携わる」等の意見が出されました。



### ③発表

ワークショップでまとめたものを、各班発表してもらいました。

生徒達が考えた「手の打ち所」には、「度島のお宝ある、丸島を利用した、イベントやテーマパークを作る」「度島特性冬スイカを作る」「修学旅行で度島をアピールする」「サイクリングコースを作り、自転車を貸し出す」など、自分たちが住む度島をよりよくするために、とても柔軟な意見がたくさん出されました。



### ④まとめ



今回のたくしま塾は、「手の打ち所」について生徒達に考えてもらいました。次回は、その手の打ち所について、「こんな島になったら良いな」（可能的将来）と「このままだとこんな島になってしまう」（成り行きの将来）について、「どうしたら可能的将来に出来るのか？」「どうしたら、成り行きの将来にならないのか？」を考えてもらいます。